

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立堀川小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は、概ね妥当であると考えます。  
運営に関する計画の最終評価からは、学校がさまざまな取り組みや体験活動を工夫しながら進め、学力や体力など多方面で成果が表れていることがよく分かった。また、その取り組みや行事についても、学校ホームページや学校だより等を通じて積極的に発信できている。  
今後も堀川小学校の子どもたちのため、これらの取り組みを継続して進めてほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

<p>年度目標：<b>安全・安心な教育の推進</b></p> <p><b>【全市共通目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%（R6年度86%）以上にする。</li><li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%（R6年度79%）以上にする。</li><li>・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍率比を前年度（1.1%）より減少させる。</li></ul> <p><b>【学校の年度目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>① いじめアンケートの効果的な時期を鑑みて実施し、実態把握に努める。さらに学級内での児童の言動や様子を観察し、いじめを見逃さない体制を徹底する。学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」の設問に対する回答で「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」の割合を85%にする。</li><li>② 校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</li><li>③ 「学校のきまり」を守って生活できるように取り組む。いろいろな場面でのあいさつができる児童を育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている。」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。</li><li>④ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が80%以上になるようにする。</li><li>⑤ キャリアパスポートの実施により、中学に進学する不安等について把握し、中学校と連携して不安を解消出来る取り組みを進める。さらに、「将来の夢や目標を持っていますか。」という児童アンケートに対して肯定的に回答する児童の割合を80パーセント以上にする。</li><li>⑥ 医療的ケアが必要な児童の在籍に伴い、校内の支援体制を整える。また、校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。研修会や共通理解の場の持ち方を明確化し、児童の特性や傾向・合理的配慮のための支援の方法などについて共有を図る。</li></ol>
---

⑦ 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。事後アンケートで、児童・保護者とも「マーチングに取り組むことで（子どもたちが）得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上になるようにする。また、マーチングを鑑賞する児童の意識が高まるよう工夫することで、本校の伝統が受け継がれていくようにする。

達成状況の評価については、妥当であると考えている。

子どもたちが主体的にあいさつをする姿が見られ、学校全体の雰囲気もたいへん良い。不登校といった課題はあるものの、学校は子どもや家庭に丁寧寄り添い、誠実に対応している様子が見える。今後も引き続き、一人一人の子どもを大切にすることを進めてほしい。

また、不登校の児童が学校に来られない状況をふまえて、少しでも良い方向へ進むよう、スクールカウンセラーや区役所、こども相談センター、大阪市教育支援センター、フリースクールなどの専門機関・居場所と連携し、粘り強く支援を続けてほしい。

年度目標：**未来を切り拓く学力・体力の向上**

#### 【全市共通目標】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を44%（R6年度43.7%）以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を71%（R6年度70%）以上にする。

#### 【学校の年度目標】

- ① 日々の教育活動全般において、多読・速読など、言語活動の充実を図っていく。また、子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む、「総合的読解力育成カリキュラム」を開発し、総合読解力育成のための授業を実施して、思考力・判断力・表現力の育成に取り組む。
- ② 小学校学力経年調査・校内アンケートの「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広めたりすることができている。」の項目に肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。
- ③ 学年が上がるにつれて、英語に対する苦手意識を持つ児童が増えてきている。授業づくりを工夫し、小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ④ 小学校学力経年調査の平均正答率70%以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。
- ⑤ 本校児童の体力・運動能力に合った体育科授業と体育的な取り組みを通して運動に親しみ体を動かすことが好きな児童の割合を増やす。小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対しての肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- ⑥ 規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）の保健指導・食育の両面で継続的に指導し、保護者へも啓発していく。

達成状況の評価に関しては、妥当であると考えている。

学力の結果が全国平均や大阪市平均を上回っているのは、大変すばらしい成果である。これまで教職員が、学力向上に向けた研修や授業研究に継続して取り組んできたことの大きな表れであると言える。また、体力面においても、トップアスリートの講師を招いた取組や、マラソン・なわとびなどの活動を継続して実施しており、その成果として、体力テストでは男女ともに大阪市および全国の体力合計点を上回る結果となっている。

児童数が増加傾向にある中でも、各学年の実態に応じて場を工夫しながら体力向上に向けた取組を進めている点は高く評価できる。今後も引き続き、子どもたちが運動に親しみ、体を動かすことを楽しめる環境づくりに取り組んでほしい。

#### 年度目標：学びを支える教育環境の充実

##### 【全市共通目標】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準（※）を満たす教職員の割合を66%（R6年度65%）以上にする。  
※1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること  
1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

##### 【学校の年度目標】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。）
- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。
- ③ ゆとりの日の設定を定期的に行う。学校閉庁日については夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日間以上行う。
- ④ 研修計画を立て、教職員アンケートで「校内研修が充実していたと思うか。」の項目について、肯定的に答える職員の割合を80%以上にする。
- ⑤ 図書室の移設にも対応しながら読書環境の整備に努め、蔵書の整備を積極的に行う。児童アンケートの「読書が好き」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。
- ⑥ 学校アンケートの「学校は家庭・地域との連携をとっているか。」の項目について肯定的に答える保護者の割合を70%以上にする。

達成状況の評価に関しては、妥当であると考えている。

ICT機器を活用したアンケート調査や手紙のデータ送信など、ICTを活用した働き方改革の取組は非常にすばらしい。今後も、子どもはもちろん、教職員の働き方改革の視点もふまえながら、環境整備を進めてほしい。また、教職員の勤務時間や健康面にも引き続き十分な配慮をお願いしたい。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

【安心・安全】【学力・体力の向上】【教育環境の充実】の成果や課題を丁寧に分析し、今後の目標設定を明確にしたうえで、引き続き子どもたちのための取り組みを進めてほしい。地域としても、学校のためにできることに積極的に連携していきたい。

今後も、地域に根差した歴史と伝統ある堀川小学校として、より充実した教育活動を展開されることを期待している。